5-3

水前寺・江津湖地域

5-3-1　水前寺・江津湖地域の範囲

熊本市が指定する水前寺・江津湖地域は、下の図に示した範囲の地域です。

5-3-2　水前寺地域の景観形成の基本的考え方

回遊式の庭園として名高い水前寺成趣園は、熊本市を代表する名勝として広く全国に知られています。

園路からの変化に富んだ庭園の表情や古今伝授の間からの庭園の構図は、熊本市の貴重な財産となっています。

このため、公園を取り囲む樹木の上に建築物等が顔を出して、庭園景観の構図を損なうことがないように、景観誘導を進めます。

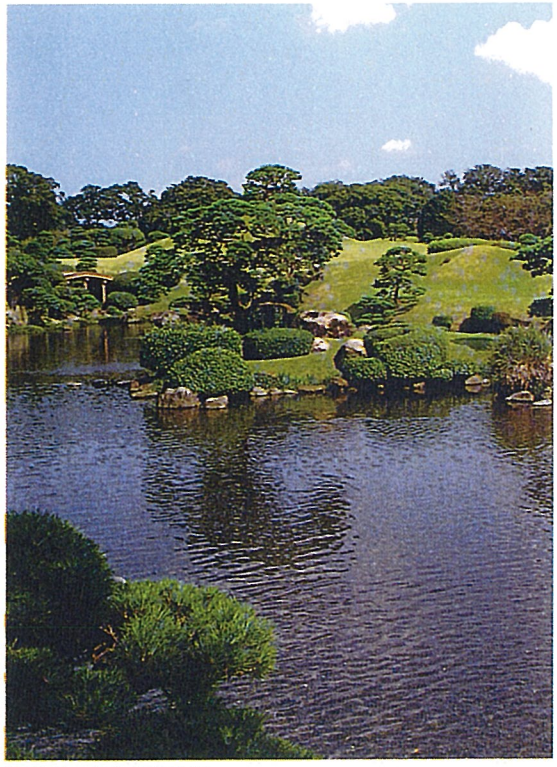


写真　水前寺成趣園

写真　江津湖

5-3-3　江津湖地域の景観形成の基本的考え方

江津湖（上江津、下江津）は水の都としての熊本市を最も強く印象づける場であるとともに、周辺の市街地にあっては貴重なオープンスペースとして位置づけられます。

江津湖の景観は、水鳥が戯れる湖面に代表される近景、周囲の古木や高木、田園に代表される中景、その奥に遠望される山々が織りなす遠景によって構成されていることから、これらの自然的景観を損なうことがないように、景観誘導を進めます。

5-3-4　水前寺・江津湖地域の景観形成指針

熊本市では、景観形成指針に加えて、各地域ごとに、次の表のような地域特別指針を設定しています。

※熊本市大規模建築物等景観形成指針は、66ページの表を参照してください。

表　水前寺地域特別指針（色彩に関するもの）

建築物　外観 工作物	水前寺公園周辺の建築物等は、庭園の雰囲気と調和した色彩およびデザインとすること。

表　江津湖地域特別指針（色彩に関するもの）

建築物　外観 工作物	湖岸から見える建築物等は、形状、色彩が江津湖の自然的景観を阻害しないように努めること。

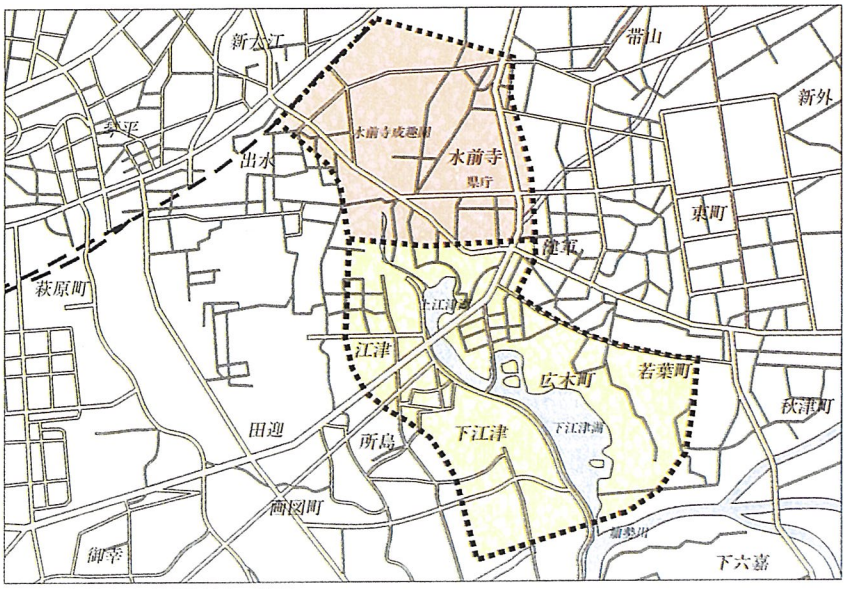


図　水前寺・江津湖地域の範囲

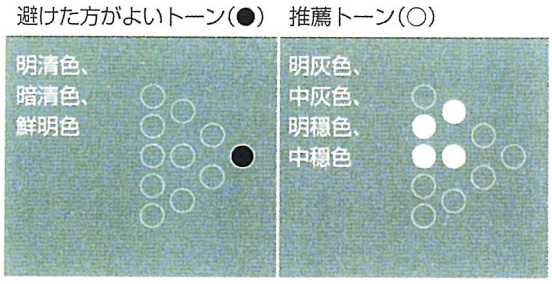
5-3-5　水前寺・江津湖地域の色彩ガイドライン案

水と緑をいかした風格ある色彩景観を目指そう

水前寺・江津湖地域は、水と緑に包まれた自然景観を基調とし、県庁をはじめ公園、体育館、図書館などの公的施設が多数立地しています。
市民の身近な憩いの場として親しまれている水前寺公園、江津湖やそこから遠望できる山々などの自然景観と調和を保ちながら、水と緑をいかした風格ある色彩景観づくりを目指します。

■表　水前寺・江津湖地域の外壁基調色の色彩ガイドライン案

※1―表面に着色を施していない木材や土壁、金属板、スレート、ガラスなどの素材色は、この色彩ガイドラインの適用を除外します。
※2―各トーンの色彩の範囲は、19ページの一覧表を参照してください。



中高層の建物は中穏色で落ちついた雰囲気を演出しよう

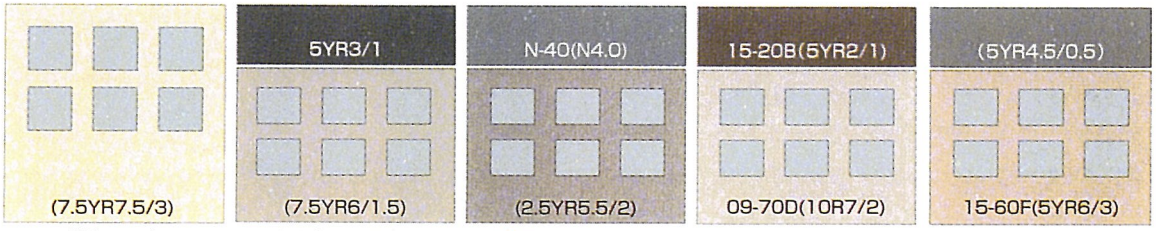
中高層の建物は明るさを抑えた中穏色を基調とし、周辺の自然と一体化した落ちつきのある色彩を基本に外観デザインを行います。
また、高層階に掲げる広告物の色彩は外壁面と同色を基調にするなどして、風格のある色彩景観をつくります。

低層の建物には灰色や暗穏色の屋根をつけよう

また、一般の住宅や商店など、低層の建物は灰色や暗穏色の勾配屋根をつけるなどして、遠い視点や高い視点から見たときに、緑に融和しやすい配色になるように心がけます。

■水前寺・江津湖地域の推薦配色

この地域では、中穏色の外壁と暗灰色や暗穏色の屋根が配色の基本になります。
また、色彩ばかりでなく、材質感や形態の面でも品格が保たれるよう留意します。



熊本テルサ　熊本市総合体育館　集合住宅―水前寺地域

■写真　水前寺・江津湖地域の現状

●左―つやを抑えた中穏色の無釉タイルが外装の基調になっています。近景での外観が単調にならないよう、数色のタイルを混ぜ貼りしています。
●右―中央の体育館は、暗穏色の勾配屋根をつけることによって、風格づくりと自然との融和を成功させています。

中穏色のタイルを混ぜ貼りした建物の例

暗穏色の傾斜屋根をつけて江津湖からの眺望に配慮した例

■写真　景観色彩シミュレーション

江津湖周辺には鮮やかな色彩を屋根や壁の基調とした建物が少なくありません。
自然地に隣接してこうした緑と対比の強い色彩が存在すると、時間や季節とともに姿を変える自然の色彩に目が向けられなくなってしまいます。
また、水面上にも鮮やかな色彩が倒景となって現れます。彩度の高い色材は、一般的に退色しやすく、飽きられやすいものです。

水前寺・江津湖地域の景観と対比的な例

屋根の色彩を抑え、水辺の景観に融和させた例

5-4

歴史的まちなみ地区

- 1―熊本市川尻地区
- 2―菊池市御所通り地区
- 3―不知火町松合本通り地区

5-4-1　歴史的まちなみ地区について

熊本県には、地域の風土や文化、産業などを反映して形作られてきた歴史的なまちなみが随所に見られます。

近年、こうしたまちなみに暮らす人々の中から、地域の生活や文化を伝える資源として、その景観を保全するとともに、地域活性化の手段として積極的に活用していこうという声があがっています。

ここに挙げる3つの地区では、こうしたまちなみの中でも特に主体的な試みが展開されており、まちなみに暮らす人々が、景観形成住民協定を締結したり、建物の建設基準等を設けるなど自らのまちなみにふさわしい建物を整備していこうと努力しています。

5-4-2　景観形成住民協定

菊池市御所通り地区および不知火町松合本通り地区においては、景観形成住民協定が締結されており、このうち色彩に関わるものとして、次のような基準が設けられています。

建物の色彩は、無彩色等落ちつきのある色を基調とする。

図　歴史的まちなみ地区の位置

5-4-3　歴史的まちなみ地区の色彩景観づくりの基本的考え方

歴史的まちなみ地区には、それぞれが刻んできた歴史の中で蓄積された伝統的な色彩や配色があります。

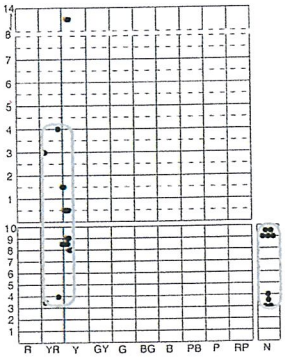
色彩景観づくりにあたっては、こうした色彩や配色を知り、それをいかしていくことが必要です。

- 1―地域の環境を知り、いかす努力をする。
- 2―地域に根付いた色彩や配色をいかす。
- 3―地域に伝わる素材・建材をいかす。
- 4―まちなみの色彩の連続性に配慮する。
- 5―騒色を取り除く。

5-4-4　伝統的な材料と配色の典型

3つの地区では、建築形態や規模は少しずつ異なるものの、漆喰壁と燻し瓦の屋根という無彩色による構成が配色の典型になっています。

外壁基調色の分布―御所通り地区



白や暗灰色などの無彩色を基調とした建物と、茶系の木材などを基調とした建物が多くみられます。
一方、非常に彩度の高い黄色を基調とした建物もみられます。

1―熊本市川尻地区

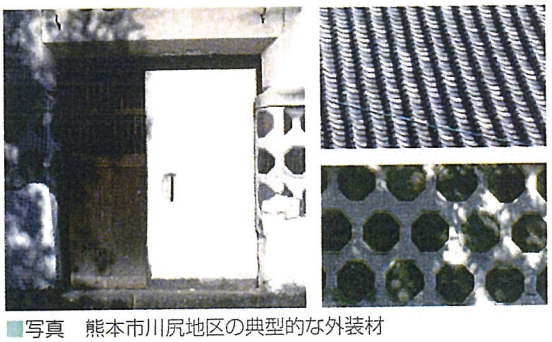


写真　熊本市川尻地区の典型的な外装材

昔ながらの造り酒屋など、白漆喰壁の建物が数多く現存しています。
漆喰に墨を塗り込んだものも多く見られます。
灰色と白のなまこ壁や焼き板の腰壁をとりつけた建物も見られます。
屋根は、燻し瓦が主体になっています。

2―菊池市御所通り地区

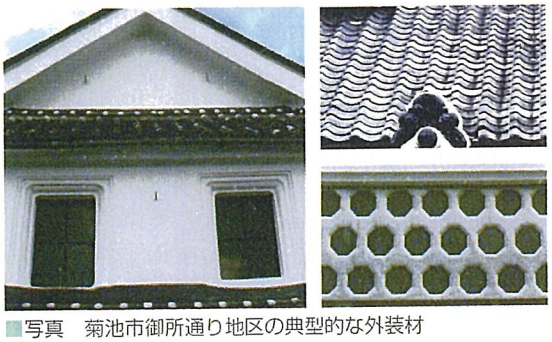


写真　菊池市御所通り地区の典型的な外装材

白漆喰壁の建物が数多く現存しています。
漆喰に墨を塗り込んだものも見られます。
屋根は、燻し瓦が主体になっています。
また、白壁の歴史的な建物の意匠をモチーフにした新しい建物や、素材・意匠を統一した看板なども整備されはじめています。

3―不知火町松合本通り地区

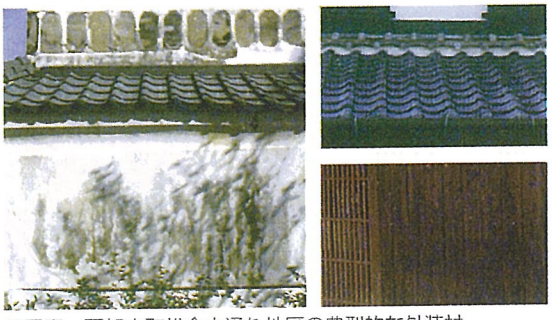


写真　不知火町松合本通り地区の典型的な外装材

白漆喰壁の建物が数多く現存しています。
灰色と白のなまこ壁や焼き板の腰壁をとりつけた建物も見られます。
なまこ壁のしくみなどを説明するまちなみ資料館も整備されています。
屋根は、燻し瓦が主体になっています。

5-4-5　歴史的まちなみ地区の色彩ガイドライン案

無彩色を基調にした地域の色彩景観を踏襲しよう

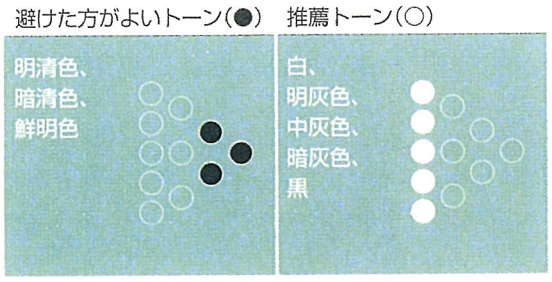
3つの地区の建物は、白壁、燻し瓦に代表される無彩色の外壁や屋根と、木製の建具で統一され、整然とした色彩景観をつくりあげています。色彩ガイドラインでは、さまざまな機能や規模の建築物や工作物に対応するため、彩度の低い明穏色、中穏色、暗穏色も許容していますが、「白と黒の川尻」などという愛称に現れるほど地域の人々に親しまれ、地域の中で洗練されてきた色彩景観をもつ歴史的まちなみ地域では、これらの配色を踏襲した、無彩色による配色を基本とします。

地域の合意を深め、「騒色」を取り除こう

また、建築物ばかりでなく、広告物や公共サインなどの色彩にも配慮し、まちなみの連続性を乱す「騒色」を持ち込まないように住民間の合意を深め、地域の設計者や施工者を軸に、「歴史的まちなみ」という統一されたイメージのもとに、よりきめの細かい色彩景観づくりを進めていくことが重要です。

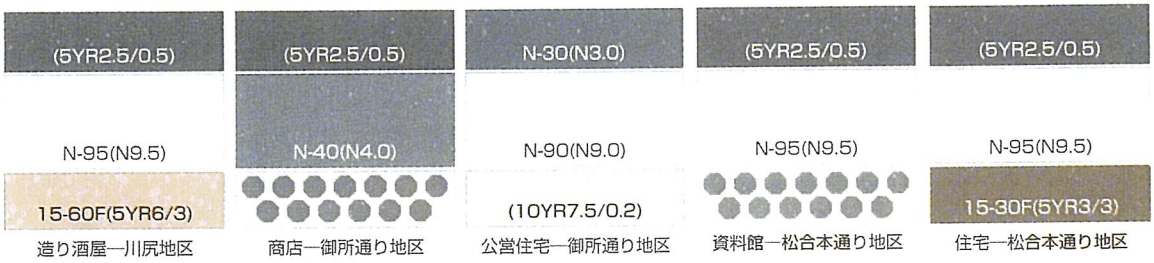
※1―表面に着色を施していない木材や土壁、金属板、スレート、ガラスなどの素材色は、この色彩ガイドラインの適用を除外します。
※2―各トーンの色彩の範囲は、19ページの一覧表を参照してください。

■表　歴史的まちなみ地区の外壁基調色の色彩ガイドライン案



■歴史的まちなみ地区の推薦配色

3つの地区の建築形態や規模などは異なりますが、配色の典型はほぼ共通しています。暗灰色の燻し瓦に白や墨塗りの漆喰壁が基本となっており、これになまこ壁や板壁などの腰がとりつけられています。



■写真　歴史的まちなみ地区の現状

●左―古くからある造り酒屋の外壁を保存しています。自動車の接触などによって損壊した箇所もていねいに修復しています。
●右―歴史的まちなみの連続性を妨げないように、周辺と配色をそろえた公営住宅の例です。ゲートや休憩所に庇や屋根などをつけ、建物本体にも勾配屋根をつけるなどして、スケール感を抑える努力をしています。

手入れの行き届いた造り酒屋―熊本市川尻地区

歴史的まちなみに配慮した新しい集合住宅―菊池市御所通り地区

■写真　景観色彩シミュレーション

写真の建物は、無彩色の外壁が連なる中に、他とは明らかに異なる黄色に外壁を塗装しています。周辺のまちなみと対比が強いことから目立ちはしますが、まちなみの連続性を大きく妨げています。
鮮やかな色彩は、前面にある黄葉したイチョウの葉のように季節感を感じさせる可変性のある要素にまかせて、建物はその背景になるような色彩を基調とすべきです。

歴史的まちなみ地区の景観と対比的な例―菊池市御所通り地区

外壁基調色の彩度を下げて、黄葉が映えるようにした例